

ともだち



人と人との出会いを大切に
笑顔の輪を広げましょう

たかさき し こくさいこうりゅうきょうかいかいほうだい とう
高崎市国際交流協会会報第116号

2024.6

◆トピックス(2024年^{ねん}1月～5月)

■子ども日本語学習支援事業^{こ ども にほんごがくしゅうしえんじぎょう}

■新規ボランティア養成講座

1月20日、2月10日、2月17日、3月2日の4日間、計20時間の子ども日本語学習支援ボランティア養成講座が^{ちゅうおうこうみんかん}中央公民館で行われました。17人が受講し、^{ぐんまだいがく}群馬大学^{まつだ}グローバルイニシアチブセンターの松田デレク先生から、日本語を母語としない子どもの日本語学習支援の基礎となる知識や支援方法を学びました。松田先生自身、小学生の時にペルーから来日し日本語をゼロから学んでいること、また大学生のころから支援ボランティアをしてきたことなど、当事者としての話も多く、受講者全員が最後まで熱心に講義を聞いていました。受講者からは「子どもの背景、保護者の理解、聞く、支える、応援する、寄り添う、傾聴、観察など、大切なワードがたくさん出てきたので、いつも心にとめておきたい」「将来の可能性、選択肢など気づかせてあげて、少しでも支援できたらと思う」「外国人、日本人でなく、人間として平等に生活するための支援と考える」といった感想が寄せられました。



■令和5年度ボランティア派遣実績

保護者からの要請に応じ、11人のボランティアが小学1年生から中学3年生計11人の日本語学習や教科学習の支援をしました。(事務局)



■陶芸体験国際交流会～作品発表会～^{とうげいたいけんこくさいこうりゅうかい さくひんはっぴょうかい}



4月20日、^{たかさきしやくしよまえ}高崎市役所前^{ひろば}広場で第3回陶芸体験国際交流会が行われました。在住外国人4人と日本人6人が参加し、焼き上がった作品に

やすりをかけて完成させ、作品への思いなどを話しながら1人ずつ発表しました。参加者はスタッフが準備した「高崎クイズ」にも挑戦し、終始和やかな雰囲気でした。「いろいろな年代、国籍の人と交流できて楽しかった」「これからも陶芸を続けていきたい」などの感想が参加者から寄せられました。(事業部会)



令和6年度総会

5月22日、高崎市総合保健センター第4会議室において総会が開催されました。令和5年度事業報告・決算、役員改選、令和6年度事業計画・予算が審議され承認されました。串田会長からは「令和5年度は4年ぶりにコロナ流行前の規模で国際交流の集いを開催することができた。今年度もボランティアの方々のお力添えをいただきながら、地域に根ざした多文化共生事業を地道に実施していきたい」と挨拶がありました。

【令和5年度支出決算額 12,765,943円】

【令和6年度予算額 14,813,000円】（事務局）



◆おしらせ(2024年6月～8月)

第8回国際親子交流会

日時=6月29日(土曜日)午前10時～12時 ●場所=中央公民館(末広町) ●内容=親子で一緒に楽しめるゲームをしながら交流する ●対象=1.外国人カップルとその子ども 2.外国人と日本人カップルとその子ども 3.海外に長期滞在していた日本人カップルとその子ども(帰国子女) 4.国際交流を望む日本人親子 ●定員=20人程度 ●費用=1家族500円(飲み物やスナックが出ます) ●申込=家族の氏名、子の年齢、出身国、電話番号を6月17日(月曜日)までにメールで事務局へ

COOL TAKASAKI発信事業

～繭クラフト体験～

日時=7月13日(土曜日)午前9時30分～11時30分 ●場所=日本絹の里(金古町) ●内容=繭で花の飾りを作る また特別展を見て蚕やシルク作りについて学ぶ ●対象=市内在住・在勤の外国人 ●定員=15人(先着) ●費用=参加費は無料(入場料200円と材料費350円は各自施設に直接支払う) ●申込=6月17日(月曜日)までに名前、国籍、電話番号をメールで事務局へ

多文化サロン～イタリア～

日時=7月13日(土曜日)午後2時～3時30分 ●場所=中央公民館(末広町) ●内容=イタリア人ゲストから、



イタリアの文化・衣食・生活習慣などの話をお菓子を食べながら聞く ●定員=30人(先着) ●費用=無料 ●申込=6月17日(月曜日)より協会ホームページから

語学ボランティア養成講座 ～スペイン語はじめての一步～

期間=8月28日～10月30日の毎週水曜日(全10回)、午前10時～11時45分 ●場所=中央公民館(末広町) ●対象=協会会員か市内在住・在勤者で、スペイン語を初めて学ぶ人 ●内容=日常使われる単語、フレーズ、動詞の活用や発音の基礎を学ぶ。スペイン語が読めて、辞書が引けるレベルを目指す。パラグアイの文化についての話を聞く ●定員=会員5人(先着)、一般15人(先着) ●費用=会員3,000円、一般5,000円 ●講師=山田公子さん(協会多文化講師) ●申込=会員先行申込は6月10日(月曜日)から件名に「スペイン語講座」、本文に名前、住所、電話番号を書いてメールで事務局へ。一般申込は7月10日(水曜日)から

親子国際理解バスツアー

期日=8月22日(木曜日) ●内容=JICA地球ひろばと読売新聞東京本社を訪問して国際理解を深める ●対象=市内在住の小学4年生～中学生とその保護者(1人まで)で、8月4日(日曜日、午前)の事前説明会に参加できる人 ●定員=15組(先着) ●費用=1人5,000円 ●申込=7月5日(金曜日)から件名に「親子国際理解バス」、本文に参加者氏名、続柄、学校名、学年、住所、電話番号を書いてメールで事務局へ



麗しき倭絵

正に今は秋の朝、あけぼのなり。

家を出でたれば、麗しき倭絵の様なる有様は、私の目に掛かる。

朝の紺色に染まるる昏き空には、鯖雲も細くたなびく。

ようやく、妙義山の裏に隠れる日の光、一筋二筋ぞ雲を貫き、灯火のように暗闇をあまねく照らす。

乏しく光りたる月の形が太陽の光に如かずによく消えてゆく。

霧にかかる榛名山、赤城山の山際も少し明かりて藤に見える淡い紫なり。

倉淵へ蛇のようにうねる道は、楓が茂る。

紅に覆われる。

風を孕む帆のように、桂の葉が風で膨らむ。

そよぐ金色の葦が道端に鬱蒼としている。

漂う檜の爽やかなる香りがいと愛でたければ。

倉淵は黄昏、茫々たる海のような蔓延する金色のすすきは、夕暮れの光を浴びて正に輝く湖の水面に如く。

涼しき飄々と吹く風が落ち葉を散らす。

ますます暗くなる空には、遙かに飛んでいる鴉の形は、まるで墨の雫に見える。

帰る時は夜。一縷の光すら残らず。空ぞ曇れば、月光も無し。風寒ければ、冬の兆しとなり。

正に今こそ月日の流れを感じている。

これから、どのような絵が見えるようになるでしょう。

(※2023年国際交流の集い日本語スピーチ大会より)



権田町の春風景



蕨平森林公園キャンプ場

ヘンリさんの
コメント



こんにちは！ 私は名を、キーフ・ヘンリと申します。高崎市に住んでいる ALT (英語指導助手) で、七ヶ月位は日本にすんでいる。日本の文学の沼にはまっている私は、一度でいいから自分で書いてみようかなと思って、スピーチ大会のきっかけで、そのチャレンジに臨んだ。結局、拙いスピーチになってしまったが、これから頑張りたいと思っている。是非、またのチャンスがあったら参加してみたいと思います！

～広報宣伝部会メンバーが読んで質問しました～

Q1.日本語はいつから勉強していますか？

A.高校2年生の頃から6年間勉強しています。

Q2.日本の文学の沼にはまったきっかけを教えてください

A.日本語を勉強すればするほど、今まで送ってきた人生を顧みるようになり、アメリカの文化・歴史等に対して無関心だったり、我が国の物事が疎ましくなったり、重苦しい罪悪感を感じている。日本の文化について学び始めた時、やり直すチャンスがやっとなてくれたなあと思った。それで興味が泉のように湧いてきて、心が蘇ってきたような気持ちになった。文化の中核といえば、やはり文学だと思っている。随筆、小説、物語、どれも日本の心の隅々まで語っている。文学の勉強で、日本との絆が強くなっている感じがする。好きな国について学ぶ時は、文学の勉強が良いかもしれない。

とんとん古い話に心が赴いて読み始めた。今の時代はストレスが重なって、心が萎えてしまう場合がよくあるが、昔話を読むと神秘的な雰囲気巻き込まれて、すぐに夢中になって異世界へ旅立つかのようで、実に清々しい感じだ。それが文学の醍醐味だ。

それに古い文学の勉強が出来たら、侍の言葉遣いを手に入れられるかもしれない！ 馬鹿らしいけど、ずっとやってみたかった。日常的な場面で古語で話したら面白いかなあと思ったけど...どうやら今は全然できていない。

Q3.日本文学で好きな作品、好きな言葉を教えてください

A.難しいけど芥川龍之介の「地獄変」。今昔物語に似た古風な言葉遣いとか、人間性の歪み、すごく暗いテーマ。そして熱狂に包まれる状態を準える良秀という人物が細かくでき上がっているのは、まことに誇るべきだと思っている。

好きな言葉は、「朧 - おぼろ」。霞んではっきりしていない様子を言うので、使い道が広い。「朧月夜」とか、「おぼろげなる意識」、「朧なる花の形」云々。それに、「月」と「龍」を合わせた漢字なので、かっこいいなあと思っている。

Q4.日本の文学作品を読むのは日本語？英語？

A.いつも日本語で読んでいる。古文の場合はきつくて難しいが、できる限り頑張って耐え忍ぶ。切羽詰まった時に、現代語訳がいっても頼りになってくれる。

